第29回中日静岡ジュニア体育賞

第29回中日静岡ジュニア体育賞の受賞者が決まった。今年夏の全国中学校体育大会で活躍した県西部地区の中学生選手と指導者たち。受賞者を紹介する。

羽ばたく力 無限大

水泳男子高飛び込み1位・板飛び込み1位
大賞 伊熊 扇李さん（浜松学院2年）

昨年に続いての二種目優勝だった。最初の高飛び込みは二位に約70点の大差をつけたが、板飛び込みは苦しみ、最後の一種目を残して二位との差はわずか4点余り。逆転負けのムードが漂ったが、ここで昨年の覇者の意地を見せ、ひねりを入れた大技で73点台の高得点をマークし連覇を果たした。

今季は悔しい思いが多かった。最大の目標だったウクライナでの世界ジュニア選手権では高飛び込みが予選落ち、板飛び込みは決勝に進んだが入賞できなかった。「決めないといけないところで決められない。安定感不足が敗因です」と今も口調は重い。

今季はジニアクラスなど、一段階上の世代との戦いも経験に入れ、庫県のダイビングスクールでの練習、合宿にも参加するなど、練習の場を広げてきた。中学世代では無敵と思われがちだが、シニア選手とも競り合うほどの小学生選手も現れ、来季はさらに苦しい戦いも予想される。

「目先の勝利にこだわって難易率の高い技を取り入れるのではなく、安定感を増すのが課題。体も大きくなるから筋力もつけたい」。勉強に追われ、「まだまだスピードが足りないもっと鍛えて一年からインターハイ決勝を目指したい」と言葉に力が入る。

陸上女子1500㍍ 1位
大賞 米沢奈々香さん（浜松・北浜3年）

全国中学大会では800㍍を優勝し、1500㍍一本に絞って優勝をつかんだ。決勝では最後の直線に入るとパート。フィニッシュ直前で二人をかわす会心のレース運びで、県勢として二十年ぶりにこの種目を制した。

小学校の時は剣道が好きで、体力づくりとしてクラブチームで活躍していた。中学に入って本格的に陸上を始めるとメキキと力をつけ、一年の時から注目される選手に。二年では夏の前に足を痛め、県大会にも出られない苦しさを経験したものの、秋のジュニア五輪から復調して、今季の大活躍につなげた。

「けががなければ二年から全国中学大会に出られたかもしれない。でも、けがをしたことで、ただ走っているだけでなくストレッチの大切さを知り、体のケアにも気を付けるようになれた。今考えればいい経験だったと思います」と精神面も成長した。

ジュニア五輪でもBクラス1500㍍を制して二冠を達成し、高校一年生とも走った国体少年B3位。1500㍍だけでなく、3000㍍でも中学ランキングトップクラスとあって駅伝の活躍も楽しみだ。

水泳女子200㍍背泳ぎ2位、100㍍背泳ぎ5位
準大賞 伊藤亜香利さん（湖西・鷲津3年）

全国大会での堂々の二種目入賞だが、「優勝したかった」悔しさの方が大きいです」と笑顔は見せない。

得意の200㍍では昨年も六位入賞。夏以降は三年での全国制覇を目標に県内のあの選手が集まる合宿などにも積極的に参加し、「200㍍だけでなく100㍍でも優勝を狙おう」という強い気持ちを持って泳ぎ込んできた。大会当日は体調も良かったが、自己最高記録を出せず、同学年のライバルの連覇を阻むことはできなかった。

小一から湖西市の浜名湖スイミングスクールで本格的に水泳を始め、小六でとびうお杯の100㍍背泳ぎで二位になり、ジュニア五輪などでも活躍。今年は国体代表にも選ばれ、高校一年とも争う少年女子B100㍍背泳ぎで七位に入るなど、個人、リレー合わせて三種目で入賞する頑張りで県チームに貢献した。

高校生になっても活躍が期待されている。「まだまだ力が足りない。もっと鍛えて一年からインターハイ決勝を目指したい」と言葉に力が入る。

陸上男子走り高跳び2位
準大賞 塚本 好陽さん（浜松・富塚3年）

2㍍01の自己ベストを持って全国大会に挑んだが、1㍍96で二位。優勝記録は1㍍99で、自分の記録を跳べば優勝できたと思うと悔しい」と話す。

決勝の前日にあった予選から調子が上がらず、決勝進出条件の1㍍85を二回目に辛うじてクリア。決勝でも足がうまく合わず、1㍍99で行われた四人による争いの末、二位になった。

小学生の時に体験した走り高跳びでいい記録が出て、中学で陸上を始める2秋から本格的に跳び始めた。一年で1㍍70、二年で1㍍85と記録を伸ばすと、二年では全国中学大会に出場。走力がついた二年生には助走距離を短くするなど着実に記録を伸ばした。

陸上男子砲丸投げ2位
準大賞 大軒 孝輔さん（浜松・細江3年）

全国中学大会では絶好調だった。予選でそれまでの自己ベスト（14㍍43）を更新する14㍍56を投げると、決勝では前半三本を終わって五位だったが、後半に14㍍71を投げて二位に入った。自己ベストを連発して〇の全国準優勝だが、「目標は15㍍16の自己中学校最高記録更新だったから悔しい」と厳しく自己評価する。

中学に入って陸上を始めた。二年夏までは全国大会出場などは意識せず「大会に出て勝てればいい」というまえだった。しかし、秋のジュニア五輪で五位になったことから全国大会に目が向き、バーベルをかついだスクワットなどの筋力アップ、左足に体を乗せるフォーム改善などに取り組み力を付けた。

全国大会直前には練習で15㍍を超え、細江中最高記録新所に手応えを感じていたが、「調子が良かったから、最後は記録を意識しすぎて空回りしてしまった」と悔やむ。それでも、高校や競技を続け「砲丸投げのほか、円盤投げやハンマー投げにも挑戦したい」と闘志を燃やす。

鍛っていて負けたくないと思っていたのが刺激になった」と言う。高校では上級生との争いも始まる。「一年でインターハイに出たい」と胸を膨らませる。

県西部地区にほぼ同じ力を持つライバル、飯田匠選手（湖西・鷲津三年）がいて、大会では勝ったり、一年でインターハイに出たり。「西部地区大会から

陸上女子200㍍4位
優秀賞 内山 響香さん（浜松・北浜3）

全国中学大会では得意の100㍍で決勝進出を逃したが、200㍍で入賞。「100㍍は駄目だったけど、200㍍は良かった」と自己評価する。

中学から陸上を始め、当初は目立つ成績はなかったが、中二で取り組んだ無駄のない動きづくり、冬の坂道の走り込み、体力づくりが功を奏し急成長した。

秋には福井国体にも出場。少年B100㍍で六位に入れ、メンバー入りした成年少年女子共通400㍍リレーで六位と、この種目で県勢五年ぶりの入賞に貢献した。100㍍の自己ベストは一秒が県内高校生に次ぐ。「高校での活躍も楽しみだ。全国を見据える。

陸上男子走り高跳び4位
優秀賞 飯田 匠さん（湖西・鷲津3）

初の全国大会で決勝に進出。自己ベストを出した。決勝を走れてうれしかった」と表情を緩める。

予選、準決勝敗退で終わった。「思ったより浮いた。後で記録の1㍍96を跳んだ。「思ったより浮いた。後で記録の1㍍96を跳んだ。「喜びが湧いてきた」

小四で一番背が高いから」と勧められ始めた。昨年は東海大会二位、1㍍80の記録が最高。冬に専門的な技術指導を受け、走り込みを重ねた成果か、四月初めに1㍍91を跳ぶ。

風や助走位置などを考慮し、〇〇1㍍95も記録した。

「瞬に全てを賭ける」のが魅力だという喜びの中、「ただ、高校でのさらなる成長も期待され、「しっかりとバネを身に付けて、大きな大会で結果を残したい」とは控選手に」と次を見据える。

陸上男子200㍍5位
優秀賞 石田 悠月さん（浜松・庄内3）

「もうひと上の順位に行きたかったけれど、全国の大会直前にかかると全力を注ぐ」。これまで輪入などを経験し、今年の全国中学大会決勝でも果敢な走りを見せた。

夏には悔しさを味わった。それでも予選を通過し、国体Bクラス1500㍍に米沢選手と出場。一時は米沢選手の前を走る気持ちの強さもAクラス200㍍で頭点に次ぐ二位に入り、夏の約束を果たした。来年は三年生として「大会に向けて勝ってまいります」と意気込む。

陸上女子1500㍍5位
優秀賞 杉森 心音さん（浜松・北浜2）

予選で自己ベスト4分29秒04を出し手応えをつかみ、決勝では中学生の強豪、メンタルの強さにつけたいと「選手たちは小さく合わず、1㍍99で行われた四人による争いの末、二位になった。

小学生の時に体験した走り高跳びでいい記録が出て、中学で陸上を始める2秋から本格的に跳び始めた。一年で1㍍70、二年で1㍍85と記録を伸ばすと、二年では全国中学大会に出場。走力がついた二年生には助走距離を短くするなど着実に記録を伸ばした。

末、二位になった。

小学生の時に体験した走り高跳びでいい記録が出て、中学で陸上を始める2秋から本格的に跳び始めた。一年で1㍍70、二年で1㍍85と記録を伸ばすと、二年では全国中学大会に出場。走力がついた二年生には助走距離を短くするなど着実に記録を伸ばした。

水泳男子400㍍個メ4位、200㍍個メ5位
優秀賞 植屋 日志さん（浜松西高中3）

「全国で二種目入賞といういい結果を残し満足して200㍍個人メドレーに決勝の2分8秒13、400㍍個人メドレーに決勝の4分30秒54は、いずれも県中学新記録になった。特に400㍍の記録はナショナル合宿に参加で見る標準タイムも出てクリアし「名誉なこと」と喜ぶ。

昨年は200㍍個人メドレーに出場したが「緊張して自分のペースができなかった」と実力発揮。今年は「メンタル面で成長し、いい感じの緊張感でレースに臨めたと思う。この自信を底的に決め、高校シーズンには胸に、高校ジャーの中に入れ、ライバルとの競争にも必死で泳いだが、悔しいと無念さを募らせる。

全国大会は初出場。「昨年は潜在能力にあぶられず出場を逃した。体調がそれに追いつくよう、体をキチンとケアしていきたい」と成長を誓う。

水泳男子200㍍平泳ぎ7位
優秀賞 井上 颯さん（浜松日体3）

県大会で出した県中学新記録を目標に、この種目で自己ベストの2分17秒96を出した。全国大会出場の選手の中で一番速いタイムで、当然優勝が目標だった。

決勝は、50㍍は二番手で折り返したものの、100㍍は、150のクラップでは四、五番手争いになり、ゴールでは2分49秒78の〇位に終わった。「焦らないようにと」と無念さを募らせる。

全国大会は初出場。昨年は潜在能力があぶられず出場を逃した。体調がそれに追いつくよう、体をキチンとケアしていきたい」と成長を誓う。

水泳男子200㍍背泳ぎ8位
優秀賞 広橋 諒人さん（湖西・鷲津3）

全国中学大会では腰を痛め、自己最高（〇分8秒96）に大きく及ばない2分9秒96で八位。悔しさは今も消えない。

今季は好調で六月に県中学新記録による自己最高記録をマーク。その後の順調だったが、八月初めに腰をショックで全国中学大会に臨めなかった。

身長一七六㌢の恵まれた体を生かした大きな泳ぎを狙ったが、体調がすべてに出る泳ぎ。現時点ですでに全国高バネに「ネクシーズは一番頑張ってほしい」と期待する。

校総体の全国大会参加標インターハイ決勝出を目指す。「まだスピードも足りないし、キックやバサリロの強化などやることはいっぱい。筋力トレーニングに取り組む。全国大会出足の強化」と力を込める。

水泳男子高飛び込み8位
優秀賞 柳沼 凌士さん（浜松学院2）

二年生ながら板飛び込み、高飛び込みで決勝に進出し、高飛び込みで安定した入賞を果たした。しかし、「緊張して自分だけ」。レッシャーをかけてしまったが、「ちゃんと力を出せるようになってきたかったから悔しい」と振り返る。

家族での外旅行で飛び込みを体験して楽しさを知り、小六でトビウオジュニアダイビングクラブに入って競技を始めた。

昨年も高飛びだけで全国中学大会に出場するほど力をつけていたが、選落ちを経験。「その悔しさを胸に、今年は自宅で腹筋、腕立て伏せなど筋力アップに地道に取り組み、全国大会出場を目指す。「飛び込みはつらいけど、楽しくやっていきたい」と意気込む。

水泳女子400㍍個メ5位
優秀賞 井熊 扇和さん（浜松学院3）

飛び込みの伊熊選手を選手指導してきた。

興誠高、現浜松学院高でも活躍。大学卒業後、合同会社設立し、「飛び込みを始め、日体大で活躍、